

令和7年度
ポートステークス市中学生派遣事業
参加報告書



Port Stephens
International
exchange





～目 次～

- ◆プチアルバム … p. 1～2
- ◆派遣メンバー・テーマ … p. 3
- ◆派遣準備 … p. 4
- ◆行程表 … p. 5
- ◆派遣生徒報告書 … p. 6～66



プチアルバム





○派遣メンバー



ZUNIGA ANNABEL 渡邊明莉 高地 響 檜皮浩太郎 坂本憲祥 梅原心暖

○日本文化の紹介

	氏 名	伝えたい日本文化	報告書 ページ
1	梅原 心暖	和太鼓 	P 6 ~ 17
2	高地 響	茶 道 	P 18 ~ 24
3	坂本 憲祥	けん玉・お手玉 	P 25 ~ 36
4	ZUNIGA ANNABEL	空 手 	P 37 ~ 46
5	檜皮浩太郎	緑 茶 	P 47 ~ 56
6	渡邊 明莉	日本食（味噌汁） 	P 57 ~ 66

○派遣準備

日程	内 容	場 所	詳 細
令和7年 7/2(水)	第1回語学研修会	防災コミュニティセンター 101 会議室	
7/4(金)	第1回事前説明会 ※保護者同伴	教育委員会大会議室	派遣者自己紹介 旅行会社からの案内 今後の日程確認
7/7(月)	第2回語学研修会	防災コミュニティセンター 101 会議室	
7/14(月)	第3回語学研修会	防災コミュニティセンター 101 会議室	
7/25(金)	調理実習	城堀会館 3階調理室	「Thanks dinner」試作会
	第2回事前説明会 ※保護者同伴	城堀会館 3階会議室	現地訪問の日程 出発式・帰朝報告会について 旅行会社から渡航手続きの 最終確認
7/30(水)	出発式	町役場第2庁舎 特別会議室	町長・議長あいさつ 来賓・生徒・随行者紹介 生徒決意表明 記念品の贈呈 写真撮影・懇談
8/20(火)	帰朝報告会	町役場第2庁舎 特別会議室	町長・議長あいさつ 帰朝報告 歓談
	事後研修会	町役場 第2庁舎 3階会議室	派遣研修報告書の作成に ついて



○行程表

8月9日(土)～8月17日(日)

	日付	行程	内容
1日目	令和7年 8/9 (土)	午後 湯河原駅集合、出発 夜 羽田空港 出発	・羽田空港へ ・シドニーへ(機内泊)
2日目	8/10 (日)	朝 シドニー空港 到着 シドニー 出発 午後 ポートスティーブンス 到着	・専用車でポートスティーブンスへ ・ポートスティーブンス滞在 フィンガルバ・イリーデーパーク泊
3日目	8/11 (月)	学校体験 文化交流 (セントフィリップス・クリスチャンカレッジ) 歓迎会(姉妹都市委員会主催)	・ポートスティーブンス滞在 フィンガルバ・イリーデーパーク泊
4日目	8/12 (火)	学校体験 文化交流 (セントフィリップス・クリスチャンカレッジ) コアラ保護区	・ポートスティーブンス滞在 フィンガルバ・イリーデーパーク泊
5日目	8/13 (水)	学校体験 文化交流 (セントフィリップス・クリスチャンカレッジ) トマリー山登山	・ポートスティーブンス滞在 フィンガルバ・イリーデーパーク泊
6日目	8/14 (木)	学校体験 文化交流 (セントフィリップス・クリスチャンカレッジ) Thanks dinner(湯河原主催)	・ポートスティーブンス滞在 フィンガルバ・イリーデーパーク泊
7日目	8/15 (金)	午後 ポートスティーブンス 出発 夕刻 シドニー 到着	・専用車でシドニーへ ・シドニーのホテル泊
8日目	8/16 (土)	日中 シドニー観光 夜 シドニー空港 出発	・羽田空港へ(機内泊)
9日目	8/17 (日)	早朝 羽田空港 到着 午前中 湯河原到着、解散	

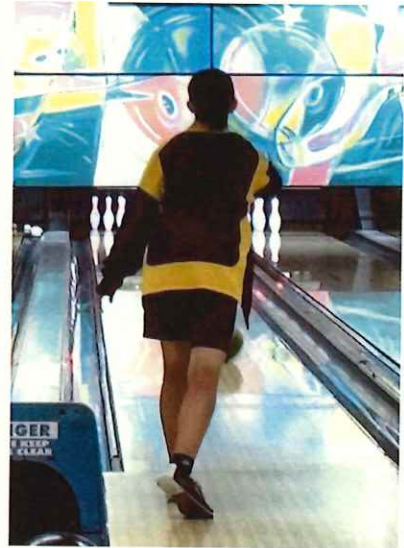
オーストラリアポートステイブンス市 派遣事業報告書

梅原心暖

「St Philip's Christian College」

～日本の学校と違ったところ～

日本では勉強がメインとなり体育以外で体を動かしたり、どこかに遊びに行ったりすることは滅多にないがオーストラリアではダンスや釣り、ボーリングに行きました。ダンスの授業では地区対抗どこの地区が一番楽しく盛り上がって踊れるかを対決しました。釣りではスクールバスで海まで行って、釣りをしましたが一匹も釣れずクラスメートの一人が素手で魚を取っていました。また、ボーリングでは学校から5分ほど歩いてボーリング場に行き、ボーリングをしている途中にポテトを買って私たちにくれました。



授業では先生が自分たちのクラスに来るのではなくいつも移動教室で忙しかったです。また、生徒一人ひとりが自分のパソコンを持っていて、日本の学校のクロームブックより何倍も使い勝手がよさそうでした。あとみんな授業中にお菓子食べていて日本の学校ではしっちゃいけないので罪悪感がありました。

オーストラリアの学校では昼食が少し遅いので2時間目終了後にスナックタイムがあります。みんなオーストラリアのチップスやグミ、プレッツェルを持ってきていて、わけてくれました。

中庭にはハンドボール用のコートがあってみんなやっていてわたしたちも混ぜてもらいました。裏庭にはバレーボール用コート、ラグビーコート、バスケットボール用コートもありました。

昼休み中にダンスのレッスンや音楽のレッスンを受けられて、私のバディもレッスンに行っていました。

【コアラの保護区について】

私はコアラの保護区に行ったらコアラがいっぱい居て、抱っこしたり、もっと気軽に見られたりできると思っていたけれど、怪我したコアラや病気のコアラなどを保護しているからあまりいなかったです。

・なぜコアラが保護されているのか

生息地の破壊、気候変更による森林火災、交通事故、犬の襲撃など、人間活動によって引き起こされるさまざまな脅威により、コアラが絶滅の危機に瀕しているためです。

・コアラの保護区では具体的に何をするのか

1、負傷したコアラの保護と治療

様々な理由でケガや病気のコアラを保護し、野生動物病院で治療やリハビリを行い、野生に返すことを目指す。

2、生息地の保全と再生

コアラの主な生息地のユーカリの森が森林火災や開発によって減少しているため、保護区ではユーカリの植樹や分断された森をつなぐ「緑の回廊」の造成など生息地を回復させる活動が行われている。

3、研究とモニタリング

コアラの生態や個体数の調査、クラミジア感染症の研究、ワクチン接種後の経過観察など、コアラの保護活動に役立つ科学研究が行われている。

4、啓発活動と募金

コアラの現状について一般の人々に知ってもらうための啓発活動や、保護活動の資金を募るための寄付活動が行われています。これらの活動の一環としてふれあい活動も行っています。

5、観光客との交流

一部の保護区では、コアラを抱っこして写真を撮るなどの観光客向けのプログラムが実施されています。これらの利益が保護活動の資金に充てられています。



【生活の中で予想外だったもの】

トイレの流すところがボタン式で日本のレバー式ではなかったです。トイレトーパーホルダーは日本と同じものもあればトイレトーパーが丸々覆いかぶさって切り取りづらいものがありました。また、トイレの壁の下が異様に空いていたり、ドアの隙間から見えてしまったりしてしまうのではないかと不安でした。

レストランやスーパーマーケットでご飯を買うと、一個一個の量が多くて大きくて味もジャンキーで優しい味ではなかったのでもともと日本食が恋しくなりました。

【日本の食と違ったところ】

・ラミントン



ラミントンとはこの画像のお菓子で、しっとりとしたスポンジケーキにチョコレートソースでコーティングをし、その上から乾燥ココナッツをまぶして作られるオーストラリア発祥の伝統的なお菓子です。

・ティムタム



ティムタムとはこの画像のお菓子で、オーストラリアで最も人気のあるチョコレートビスケットです。薄いビスケットに濃厚なチョコレートクリームを挟み、全体をチョコレートでコーティングしたお菓子です。バリエーションも豊富でどれもすごくおいしかったです。

・フィッシュアンドチップス



フィッシュアンドチップスは、イギリスを代表する料理のひとつですが、オーストラリアでも親しみがあり、毎週金曜日の夜に食べられることが多いです。一度に出てくる量が多くて食べきるのにすごく満腹感がありました。衣がサクサクでおいしかったです。

・タコス



タコスはメキシコ発祥の料理です。トルティーヤに肉や野菜、チーズなどの具材を挟んで食べます。メキシカンブームの波に乗ってオーストラリアの家庭にもトルティーヤが定着しました。

「タコチューズデー(Taco Tuesday)」という火曜日にタコスを食べるアメリカ発祥の文化をチェーン店が採用し、家庭でもタコスを作って食べられています。

私は肉とレタスとトマトを挟んで食べました。辛い物が苦手な私には肉が辛く感じました。

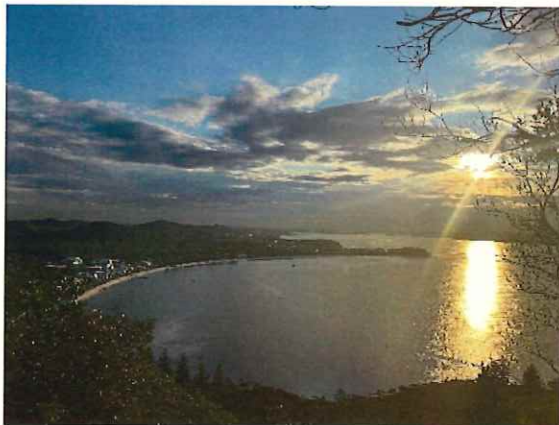
・ベジマイト



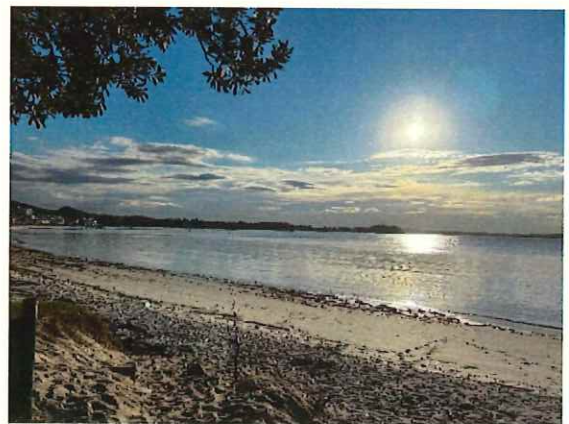
ベジマイトはオーストラリア発祥の発酵食品で、ジャムのようにトースト、クラッカー、サンドイッチなどに塗って食べるのが一般的です。ジャムのように使用するベジマイトは、オーストラリア国内のスーパーや、カフェ、ホテルの朝食ビュッフェなどでも一般的に並んでいます。しかし、その独特の風味から「世界一まずいジャム」と世界で評されることも多く、怖いもの見たさでベジマイトに挑戦する観光客やお土産として購入する外国人もいます。私の友達が食べましたが、しょっぱくてまずいと言っていました。

【観光】

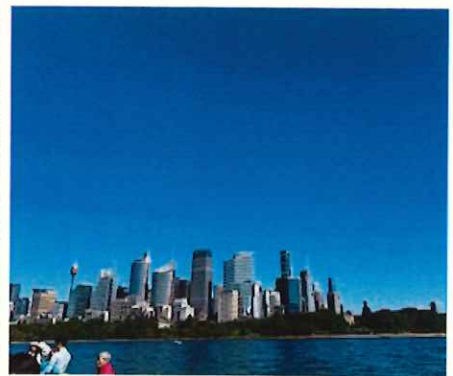
私たちは学校の帰りに山登りをしました。ガイドの人が歩くのがとても速く、結構な急坂もあったのですごく疲れました。しかし、頂上からの景色は夕日と海、町全体を見られてとてもきれいでした。



別日に海に行って、みんなでビーチバレーや水をかけあったりして遊びました。湯河原の砂浜は砂鉄が多いので黒いのに対し、オーストラリアの砂浜はすごく白くてきれいでした。



シドニー市内



・ハーバーブリッジ

一番上に立っている旗は、オーストラリアの国旗と先住民のアボリジニの旗です。

全長 500mにわたる橋には、鉄道の線路が4本、自動車用の高速道路が1本、そして歩行者専用通路が2本設備されている世界最大級の橋です。この橋を登る体験もできて、約4時間かかるみたいです。この橋を登るにはスマホも何も持っては行けなくて用意された安全装備を着てブリッジクライムをします。



【オーストラリアの国旗】



【アボリジニの旗】

・オペラハウス

実際に見ると予想以上に大きくて驚きました。

オペラハウスではオペラや、演劇、クラシック音楽、ダンスなど様々なものが見られます。そしてここだけで買える限定グッズなどもあり様々なことが楽しめます。



・ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館

この美術館は外観も内装もとても美しくとても広かったし、たくさん人がいました。様々なジャンルの絵画や芸術品があって、日本のものもありました。なかには戦時の絵や貧しい人々の絵など考えさせるような芸術品がたくさんありました。



・ドルフィンウォッチング

オーストラリアのドルフィンウォッチングツアーはイルカたちとその生息地を守るために、厳格なルールに基づいて運営されている。イルカたちにストレスを与えないように、船の速度や距離を調整したり、特定の場所のみ活動したりするなど、自然環境に配慮した取組が行われています。また、イルカたちは群れで動くことが多いため比較的に見つけやすくてたくさんのイルカに出会えました。

オーストラリアには、海と川が交わることで、土砂が混ざった水と透き通った水がしま模様のように交じり合う、非常に珍しい景観を作り出している場所があります。



← 操舵室

イルカの群れ→



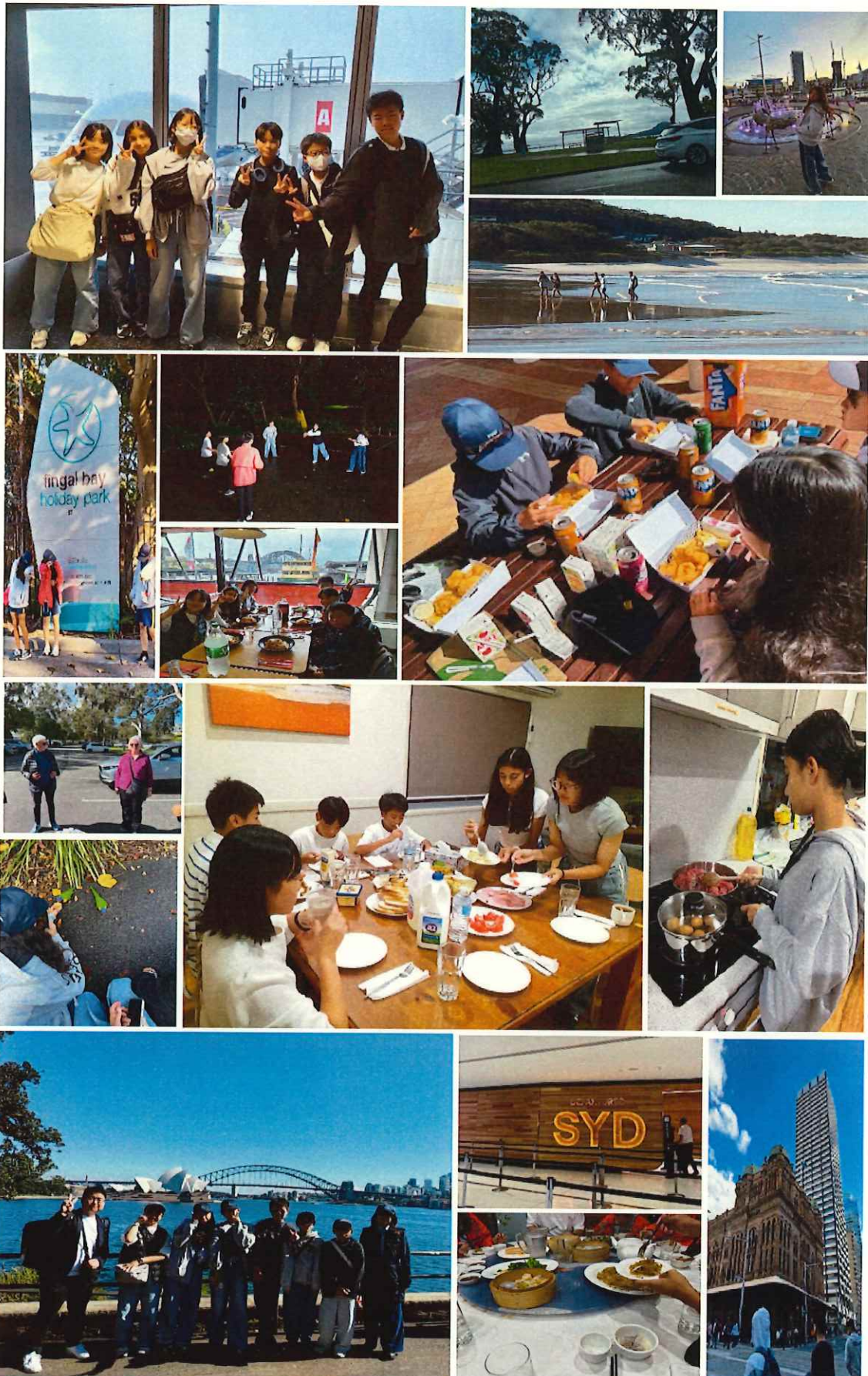
【まとめ】

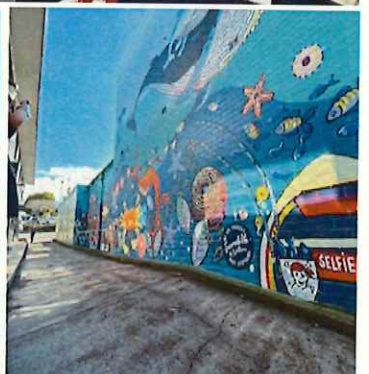
私は自分の英語力を試すためにオーストラリアに行ったけれど、私が思っていたより現地の人々が話す英語はとても流暢で、聞き取りやすかったです。言っていることも分かったけれど、自分が何と言っているかわからなくて会話を続けることができなかったのも単語だけでも次回行く機会があれば言えればいいなと思います。

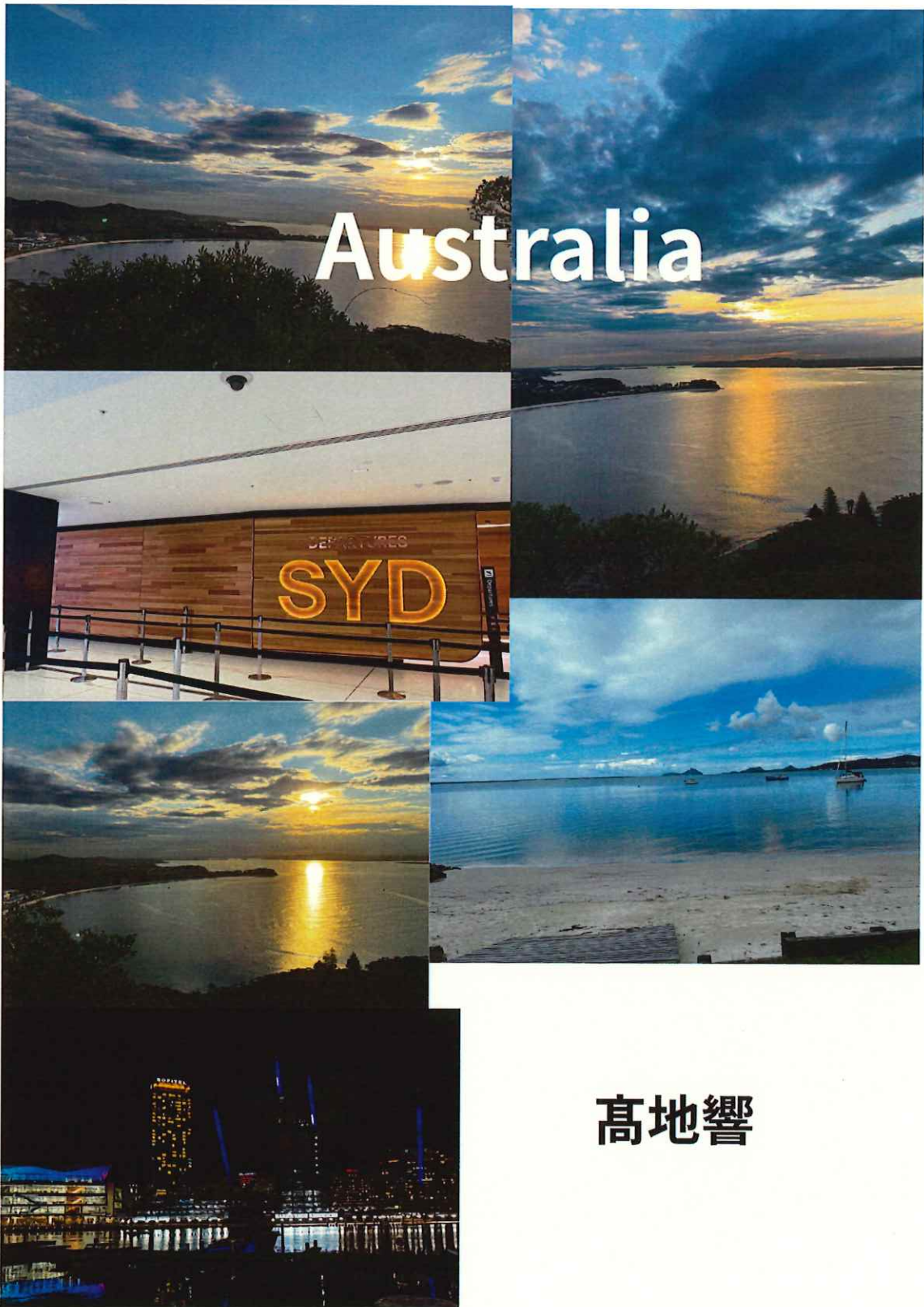
私は以前から海外に行って文化に触れていきたいと思っていて今回この派遣事業に参加できて本当にたくさんの新たな経験ができたと思っています。オーストラリアの人々はとてもフレンドリーで学校でも街中でも気軽に話しかけてくれました。また、オーストラリアに行ったことで苦手な野菜の美味しい食べ方やコミュニケーションをとることに抵抗がなくなったので日本に帰国したこれからもオーストラリア文化を取り入れつつ生活していきたいと思いました。



【アルバム】







Australia

高地響

welcome party

現地の方々がバーベキューをしてくれました。牛肉や、野菜、デザートは、とてもおいしかったです。そしてオーストラリア流の手の平サイズのハンドボールと一緒に楽しみました。



これは、現地で出してくれたケーキです。上は生クリームと、クランベリーや、ブルーベリーなどがのっていて、下のスポンジは砂糖でできていました。とても甘かったです。

School

私たちはオーストラリアのST PHILIPS CHRISTIAN COOLGEへ4日間通学しました。この学校は、小学生から高校生までの生徒が通っていて、私たちは一つ下の学年の生徒と一緒に勉強しました。

皆フレンドリーで、笑顔で挨拶をしてくれてすぐに緊張がほぐれました。



バディや沢山の友人と交流でき、英語にも挑戦しましたが、うまく伝わらない時は、ジェスチャーをして、伝えました。一生懸命理解しようとしてくれて、心が通じ合うことができ嬉しかったです。



School

授業で釣り部の高校生と海へ釣りに行きました。
釣り方のコツや、良く釣れる魚などを教えてくれました。
釣りをしながら、お互いの国の良いところなどを教え合いました。



授業でボーリング部の高校生
と一緒にボーリングへ
行きました。

そこでは、お兄さんや、お姉
さんが、食べ物や、飲み物を
ごちそうしてくれて、ボーリングの
コツを教えてくれました。



Thanks prty

thanks partyでは、私たちが今までお世話になった先生方や、バディ、現地の国際交流の方に、日本食のおもてなしをしました。他にも日本の文化や、ダンスなども紹介しました。



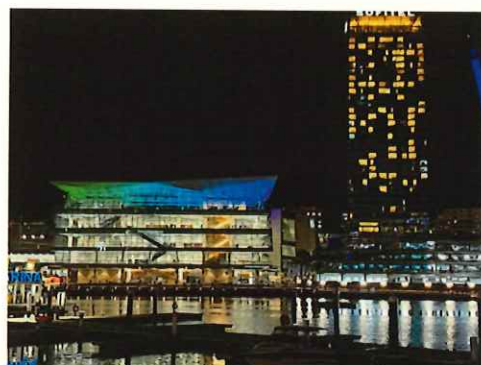
Thanks partyでは、バディと会う機会が最後でした。バディとはハンドボールをしました。とても楽しく、忘れられない思い出になりました。



Sydney

私たちは、シドニーに一泊しました。そこでは船に乗って野生のイルカを見たり、一つの街に色々な国の文化が集まった場所を見学したりしました。

他にもオーストラリアの絵を展示している美術館へ行きました。そこでしか見ることのできない素敵な絵や彫刻などが沢山展示されていました。

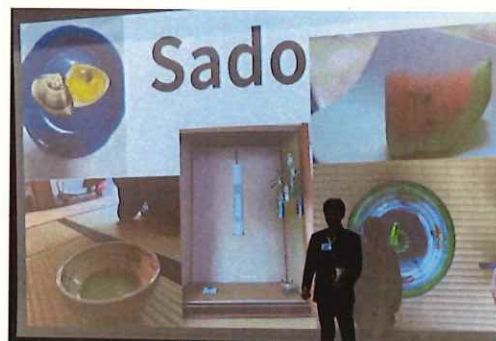


日本文化の紹介

私は茶道を紹介しました。茶道の歴史、道具の使い方、おもてなしの心などを伝えました、季節を表現した美しい和菓子の写真では、皆感動していました。



しかし日本文化を紹介した後、気が抜けて、うっかり茶碗を落としてしまいました。バディや、友達がとても心配してくれました。後日、バディが僕に茶碗をプレゼントしてくれました。優しさに感動し、心が温くなりました。





オーストラリア・ ポートステーション市 語学研修報告書



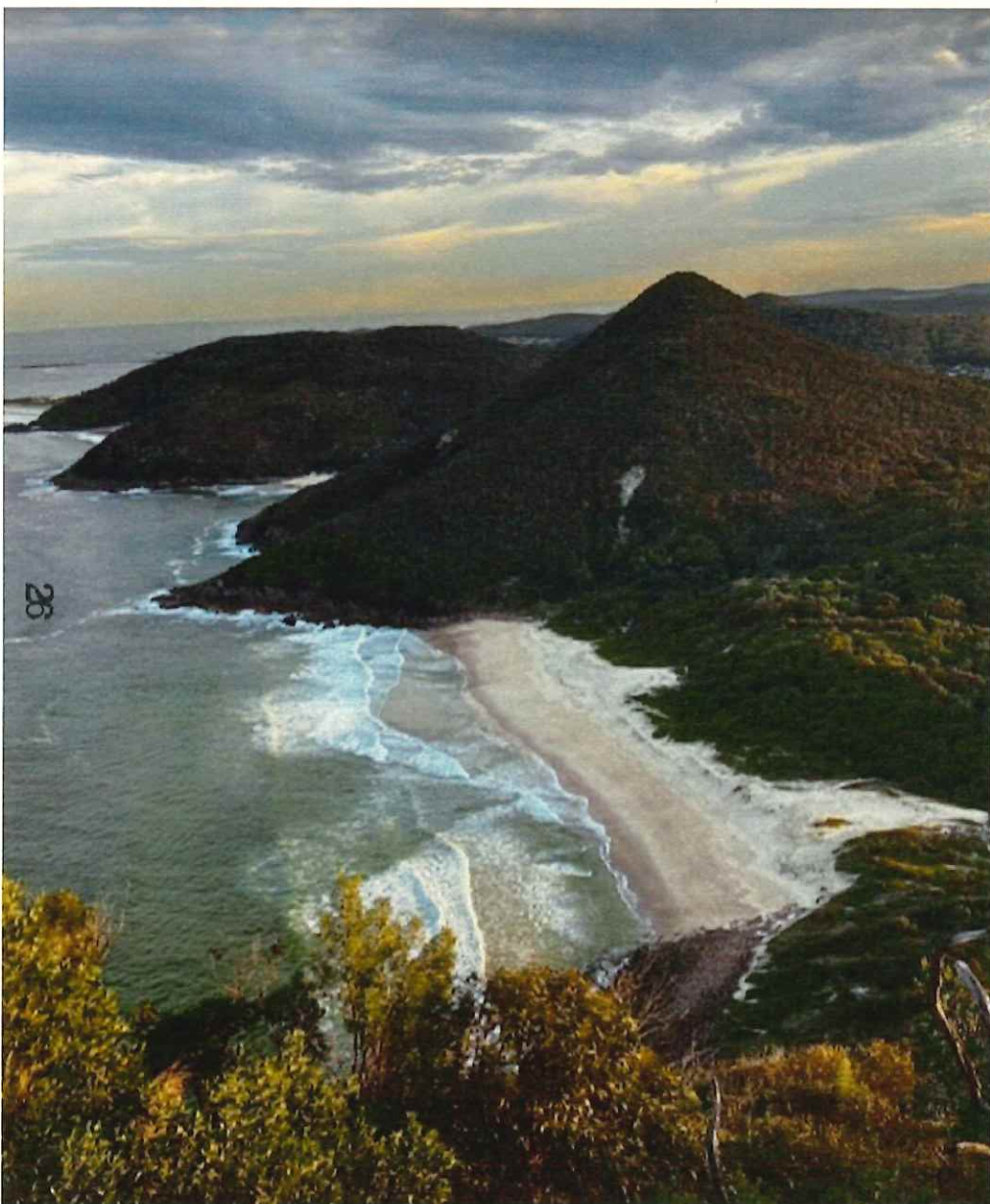
自修館中等教育学校

2年C組

坂本 憲祥

語学研修に 参加した理由

2018年に、ポートから合唱団のホームステイを受け入れたことがきっかけです。当時小学校2年生であまり英語が話せず、母に通訳をしてもらっていたので、悔しいなと思ったことを覚えています。この経験で、もっと英語を話せるようになりたいと思い勉強をしてきました。そして中学校2年生になったらポートで再会しようという約束をしたので、その約束を果たすために、申し込みをしました。中学生で海外に行き、外の世界を知ることができることは、とても良い経験になり、その後の人生にも大きく影響すると考えています。



2018年10月 ホームステイ 受け入れ時の写真



左がお母さんのRIAさん
真ん中が、息子のELLREYさん
合唱団では指揮者でした。
この時、僕は、小学校2年生でした。

あまり英語が話せなかったですが、
共通のポケモンを通して、
沢山遊んでももらいました。
弟は初日から一緒にお風呂に入り、
膝の上で昼寝していたことを
思い出します。



湯河原小学校の運動会にも、
応援にきてくれました。

2025年 再会した時の写真

28 RIAさんと、5人の子供のうち、4番目のセバスチャンと末っ子のクインシーくんが会いに来てくれました。TIMTAMのお土産をたくさん持ってきてくれて、再会できてとても感動しました。この日のために、僕は英語を頑張ってきたんだと、心から感動した再会でした。母が毎年オーストラリアへ出張のときに、リアさんやエルリーと会って僕の話をしていたそうです。こういう繋がり、末永く大切にしたいと思います。自分もいつか社会人になって出張があったら、遊びに行きたいと思いました。2027年に一家が日本へ旅行に来る予定なので、その時に一緒にスキーへ行く予定です。



日常生活

一日の流れと活動



時間	活動内容
7:00 AM	朝食
8:30 AM	学校着
9:00 AM - 12:00 PM	授業
12:00 PM - 1:00 PM	昼食、昼休憩
1:00 PM - 3:00 PM	授業
3:30 PM - 6:50 PM	夕食づくり、夕食
7:00 PM	フリータイム (ハンドボール)



Australia

文化体験



スポーツ体験

学校の授業でボーリングをしました。校内にボーリング場があるなんて、驚きでした！
日本では遊びとされていることも、オーストラリアでは授業の一貫？日本の常識は、世界の常識ではないです。

現地の遊び

オーストラリアでは、ハンドボールという遊びが流行っていて、よく跳ねるボールで学校でもコテージでも沢山遊びました。
一度遊ぶとクセになります。

料理

タコスDayやフィッシュアンドチップスDayがあり、その日はその料理を食べた。みんなで力を合わせてご飯を作ったりして、共同生活を楽しみました。コーンフレークが美味しかったです。

①記憶に残る体験

オーストラリアで友達が
出来たこと。

オーストラリアの学校に行ったときに、とても緊張していましたが、いろんな子が集まってくれて、授業で分からないことを教えてくれたりと、すごく仲良くしてくれました。バディは、2日目以降、体調不良でお休みでしたが、バディ以外の子どもたちが何人も手助けしてくれたり、声を掛けたりしてくれたので、安心しました。その友達とは今でもメールをしたりしています。最近は、日本のアニメが好きで、日本の映画を見に行ったそうです。



②記憶に残る体験



オーストラリア・学校の授業

オーストラリアの学校では、日本と全く違った授業がありました。例えば釣りをする授業、ボーリング、などの日本とは違った授業がありました。ボーリングではストライクだったらみんなでハイタッチしたり、すごく楽しい経験になりました。日本の学校より、息抜きや自由な時間が多いという印象を受けました。ストレスがあまりなく生活しているように見えて、日本で生活するよりも、ゆったりと時間が流れていました。

学びと挑戦

オーストラリアでの生活に対して、最初は英語でのコミュニケーションやバディと仲良くなれるのか不安を感じていました。しかし、実際に学校に通ってみると、オーストラリアの人々は非常にフレンドリーで、気軽に「Hi」と声をかけてくれるため、すぐに馴染むことができました。心配していた英語も思ったよりスムーズに通じ、共通のスポーツや歌手の話題を通して、友人を作ることができました。その結果、非常に充実した時間を過ごすことができました。この経験は、私のこれからの人生において大いに役立つと確信しています。改めて、自分を磨いて、英語をしっかりと身に付けて、社会人になるときには、世界とかかわりながら、仕事がしたいと思いました。素晴らしい経験となりました。

語学研修が自分にどのような影響を与えたか

Australia

語学研修は、私にとって大きな転機となりました。実際に現地で生活する中で、英語を学ぶ楽しさや難しさを肌で感じる事ができ、さらに異文化に触れることで自分の視野が大きく広がったと実感しました。特に、人々のフレンドリーさや自然の豊かさ、生活習慣の違いを体験することで、日本とは違う価値観に気づくことができました。この経験を通じて「もっと英語を学びたい」

「将来は海外にかかわる仕事がしたい」という思いが強くなりました。母のように英語を自由に使って仕事ができるようになりたいです。そうすれば、活躍できる先の世界が広がると思います。

また、単に言葉を学ぶだけでなく、相手を理解し、異なる文化を受け入れる姿勢の大切さを学んだことも大きな収穫でした。オーストラリアでの体験をきっかけに、自分の将来像をより具体的に思い描けるようになり、この経験をこれからの学びや仕事、さらには日々の生活に活かしていきたいと考えています。貴重な体験に参加させて頂き、ありがとうございました。



今回学んだことを大切にしながら、
自分の将来にしっかりとつなげていきたいと思います

ありがとうございました。





オーストラリア 研修報告書

ズニガ アンナベル

シドニー・ポートスティーヴンス 到着



シドニーの風景

シドニーからバスで約 2 時間半、ポートスティーヴンスに到着しました。移動中の景色もきれいで、野生の動物や飼われている動物などをたくさん見れました。海が見えてくるにつれ、どんどん期待が高まりました。



ポートスティーヴンスの風景

シドニーに着いた時は少し雨が降っておりあまり天気は良くなかったけど、ポートスティーヴンスに着いた時は少し晴れて青い空と青い海が見れました。日本とは違う雰囲気を感じました。

学校での様子①



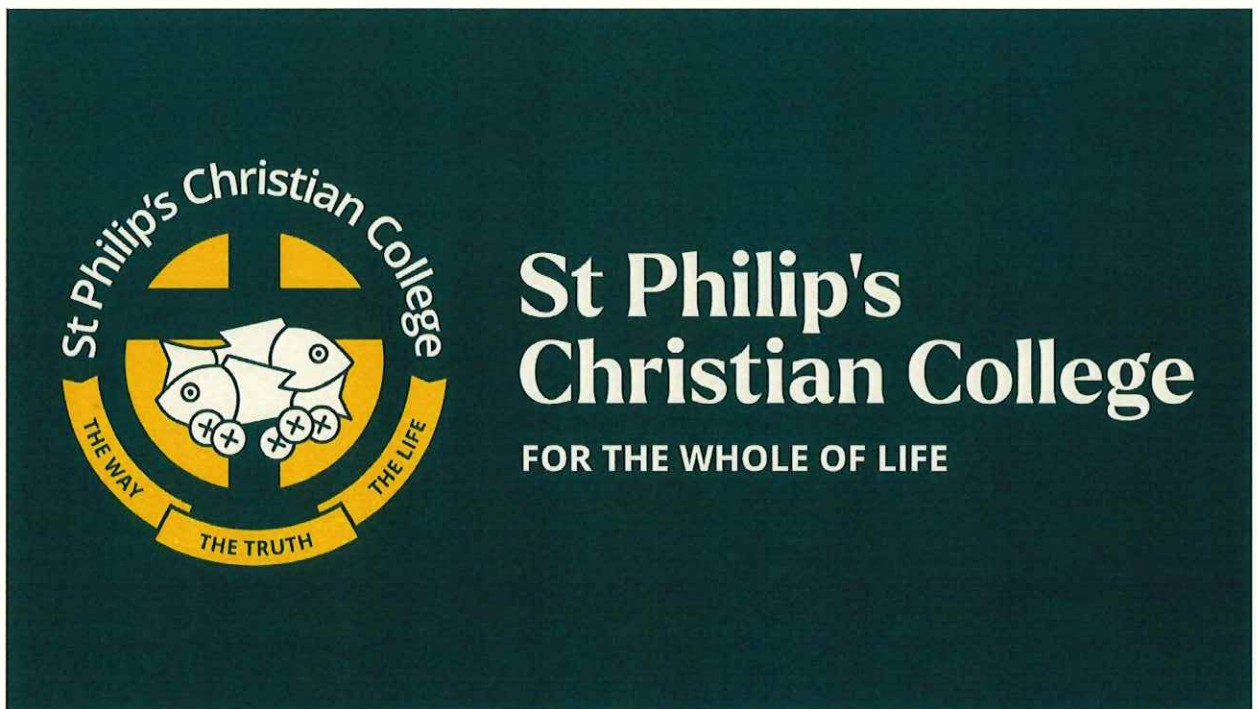
セントフィリップスクリスチャンカレッジを訪問しました。校舎は広く明るく、とてもきれいで整っていました。敷地内の設備や環境も日本の学校と違い、幼稚園から高校まで一つの敷地内に存在していました。



授業ではほとんど移動教室で、高校生は体育の授業でボウリングをお菓子を食べながらやったり、釣りの授業があったりして日本でもあればいいなと思いました。また女の子たちはアクセサリーなど自由につけて行っていたのでうらやましかったです。

学校での様子②。

授業中は英語だらけでほとんど意味がわからなかったけど、数学は計算だったのでできました。また、授業中は日本と違って必要なことであれば立ち歩きができて、グループ活動の時は班などがなくて自由に友達と活動していました。



制服は日本と違ってとっても可愛くて、スカートの長さもそこまで長くないし、全体的に緑色でリボンも可愛いし、ジャージはウインフみたいなになってて、行ったときは冬だったけど半袖短パンでいる人もたくさんいて、日本とは違うところがたくさんありました。

ウェルカムパーティー・サンクスパーティー



現地の姉妹都市委員会の方がウェルカムパーティーを開催してくれました。食事を作っていただいて、美味しいサラダやお肉、オーストラリアのケーキを作っていただきました。みんなで会話しながらご飯を食べて、交流を深めました。その後プレゼントをいただき帽子や水筒などいろいろなものをいただきました。



サンクスパーティーでは私たちが食事を作りました。唐揚げや味噌汁、おいなりさんなどを作りました。大好評でとても良かったです。また、学校で文化紹介をしましたが、姉妹都市委員会の方たちもみたいということで私は再度空手を披露しました。みなさん集中してみてくれてとても嬉しかったです。

コアラの観察と海遊び

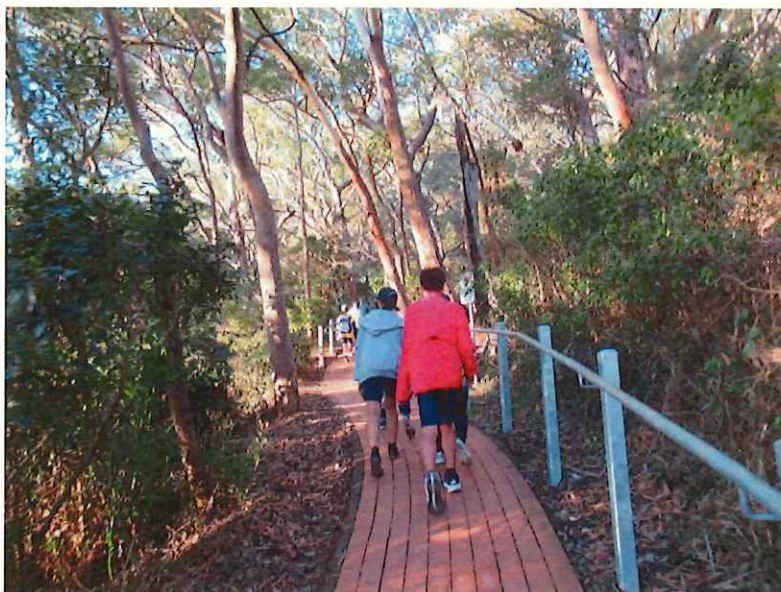


コアラの保護区では、少し遠くからコアラを三匹ほど見ることができました。またケガしたコアラを治療する部屋などもみれました。野生動物を守る大切さや自然環境の重要性を学ぶことができました。



その後、海で遊びました。砂浜はさらさらで水は透き通り、砂浜でバレーボールをしたい足だけ水にしたいって冬だったけど全然海に入れるくらいで、水着があったら絶対入ってました。

山登り



短いハイキングで山に登りました。登る途中、鳥の声を楽しみながら歩くことができました。また他にも登っている人たちがおり、その人たちに挨拶をしたり、軽い会話をしたいして海外っぽいなと思いました。



山頂からは広い海や町が一望でき、自然の美しさを実感しました。景色を眺めながら、みんなで大声で叫んだりしてスッキルしました。珍しい鳥も見れて面白かったです。

ドルフィンウォッチング



ドルフィンウォッチングでは船に乗り込み、野生のイルカを探しながら海へ出発しました。水が少し暗くて探しにくかったけど、イルカに会えるかもしれないからとてもワクワクしました。



15分くらいしたらイルカのサメみたいなところが見えて船が止まってちゃんと見たら群れでいて5、6匹くらいいて船の真横を通ってくれてとても可愛かったし感動しました。

その他の出来事



スーパーにも行きました。海外のスーパーはあまり行ったことがなくて、フルーツとか梱包されてなくて知らないフルーツもあって面白かったし、色々なお菓子やシリアルの種類もたくさんで一つの商品の種類がたくさんあってここも日本と違うなと思いました。



帰る直前にこのレインボーロリキートという鳥に会ってカップケーキを持ってたから差し出したら食べ始めて、二匹ほど集まってきてみんなでカップケーキをあげました。こんなふうに鳥と触れ合うことは初めてだったので感動しました。

全体の感想



オーストラリアでは自然のスケールや学校生活、文化のすべてが日本と違い、とても印象的でした。野生のイルカやコアラとの出会い、広い海や山の景色など、たくさんの学びと感動がありました。この経験を通して、オーストラリアに住んでみたいと思うようになったし、もっと世界中を旅してみたいと思いました。また、日本との文化の違いをよくしれて、日本の文化のいいところと海外の文化のいいところをよくしれました。この経験を活かして、自分が将来何ができるかしっかりと考えていきたいと思いました。

ポートステイブンス 市中学生派遣事業報告書

公文国際学園二年檜皮浩太郎



一日目

湯河原駅から羽田空港へ電車で移動をしました。日本とオーストラリアの違いをより感じられるように、行きの電車の中では、日本の雰囲気を目に焼き付けました。

ターミナル内では、日本食のおにぎりを食べました。

飛行機に乗って降りたらもうオーストラリアだと思えば、これから日本との文化や雰囲気の違いを体験することに、ワクワクしました。



二日目

シドニーからポートステイブンス市まで車に乗って移動しました。その時に見た生えている木や、走っている車などの景色と、途中で寄ったサービスエリアで英語の話し声が聞こえ、オーストラリアに来たんだなと実感が湧きました。

ポートステイブンス市に着いて、現地のスーパーに行きました。スーパーの中では、裸足で歩いている人がいたり、フリーフルーツという子供が自由に果物をもらえるサービスがあったり、日本との違いをさっそく感じました。僕は母にすすめられたビネガー味のポテチと、蜂蜜などを買いました。



三日目（学校一日目）

セントフィリップスクリスチャンカレッジに登校し、バディと会いました。サッカーが得意な男の子でした。最初は緊張しましたが、クラスメイトが仲良くしてくれて嬉しかったです。ハンドボールという小さなボールを使った遊びを教えてもらい、言葉はあまり伝わらなくても、身体を動かす事で初日から仲良くなれたと思います。夜は、ウェルカムパーティーをしてもらいました。パーティーでは、オーストラリアのジュース、黄色い米の料理、アイスを頂きました。また、ポートステイブンス市の副市長さんからプレゼントを貰いました。



四日目（学校二日目）

授業に参加しました。バディーの友達とも仲良くなることができました！数学の授業では、パソコンを使って問題を解いたりして会話が弾み、とても楽しかったです。

また、授業で近くの海に釣りに行きました。僕は餌釣りに挑戦しました。僕は何も釣れませんでした。日本では釣りの授業がないので、とても楽しかったです。

また、コアラの保護センターがあるところに行きました。そこでは、怪我をしたコアラを治療し、良くなるまで保護しているそうです。そのコアラを見ることができました。



五日目（学校三日目）

お昼の時間に、以前この事業に参加した僕の姉の友達と会うことができました。

お昼のチキンバーガーを食べながら、その人たちに学校はどう？などを聞かれ、楽しく会話できました。また、授業としてボーリングをしました。セントフィリップスの生徒は、授業として練習しているだけあり、とても上手でした。日本でも、こうした楽しい授業があったらなと思いました。放課後には、トマリー山に登りに行きました。その山には、戦争の跡地があり、ポートスティーブンスの歴史を一つ学ぶことができました。



六日目（学校四日目）

学校でできた友達から手紙を貰いました。今でも時々連絡をしています。

そして、クラスメイトや仲良くしてくれた人に自分の e-mail を教えました。その日に、連絡がきました。

また、今日は授業でダンスをやりました。日本の学校でもダンスの授業はありますが、いつもとは違い、おもいきり踊ることが楽しかったです。

放課後は、thanks パーティーをしました。僕のバディは来れませんでした。お世話になった友達にお礼をすることができました。



七日目

午前中に、船に乗ってドルフィンウォッチングをしました。跳ねているイルカは少し遠くで見れて、潜っているイルカはとても近くで見れました。ドルフィンウォッチングの後は、フィッシュアンドチップスを食べました。魚が柔らかくて、とても美味しかったです。

午後は、ポートスティーブンスからシドニーへと移動をしました。シドニーに着いて、夜ご飯はフィッシュアンドチップスを食べました。2回連続で食べても美味しかったです。



八日目

シドニーでは最初にオペラハウスを見に行きました。海とオペラハウスが同時に見えて、すごく綺麗でした。

次に、ニューサウスウェルズ州立美術館に行きました。置いてある美術品は、言葉がわからなくてもすごいものを感じられました。

午後は、大きなショッピングモールや、スクランブル交差点、シドニー版ハチ公のところに行きました。また、歩行者天国で動物愛護団体のデモを初めて見ました。テレビなどの映像よりも思いが伝わってきました。



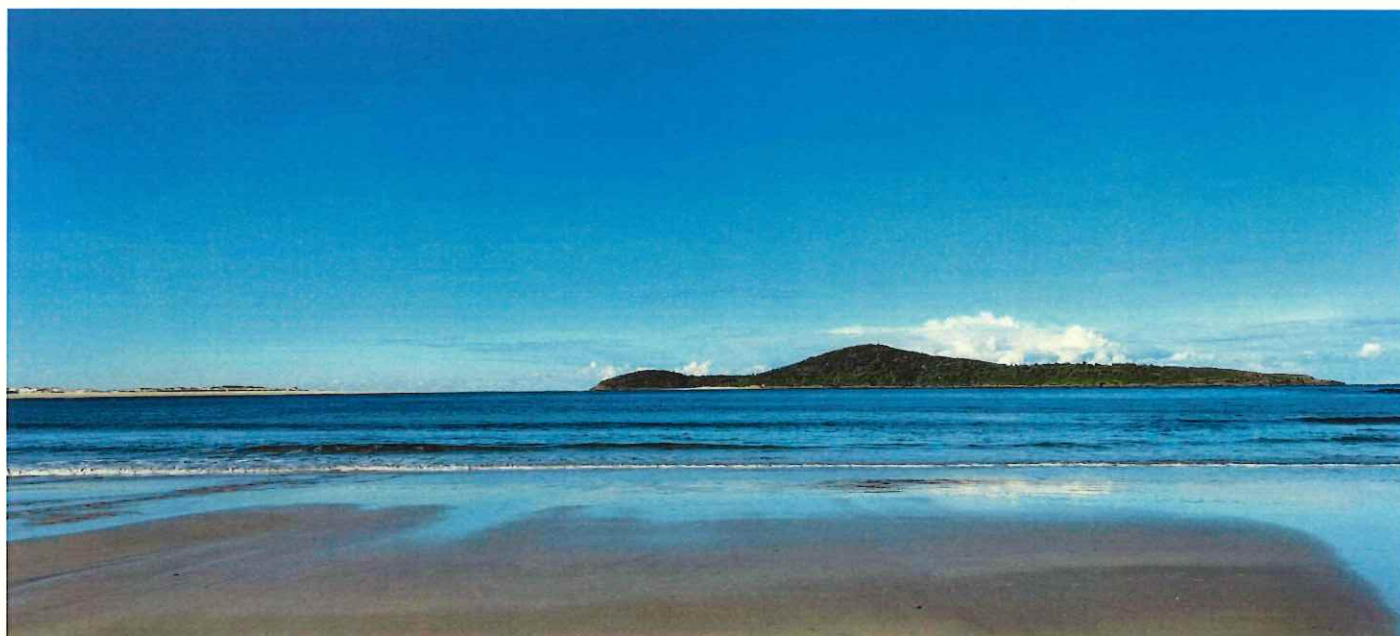
派遣事業を通して 学んだ事、気づいた事

文法を気にして、正確な英語を話そうとすることよりも、とにかく話してみることが大切だと思いました。なぜならバディとの会話で、単語だけでも何か言えば相手が理解してくれる時があったからです。ですが、本当に自分が言いたいことを伝えるには、正確に伝えることが必要です。そのために、これからは英語がすぐ出てくるようにより多くの単語や文法を勉強したいと思います。

また、オーストラリアの人は、自分に比べて明るいことに気づきました。例えばダンスの授業の時、自分なら恥ずかしがって控えめに踊るのに対し、オーストラリアの人は、全力で踊っていました。さらに、学校ですれ違ったときに挨拶をしてくれて、明るい振る舞いを感じられました。僕もこの人たちを見習って、普段から積極的に明るく振る舞いたいと思います。

令和7年度ポートステーションズ市中

学生派遣事業参加報告書



湯河原中学校 渡邊 明莉

スケジュール

1日目：湯河原駅集合 羽田空港へ

夜の便でオーストラリアのシドニーへ出発

2日目：朝 オーストラリア シドニー到着

バスに乗ってポートスティーブンス市へ

3日目：学校体験・通学交流① 文
化紹介

姉妹都市委員会主催の『WELCOME PARTY』に参加

4日目：学校体験・通学交流②

放課後 コアラ保護区を見学

5日目：学校体験・通学交流③

放課後 Tomaree Mountain 観光

6日目：学校体験・通学交流④

夜 湯河原主催『Thanks Party』の夕食会

7日目：ドルフィンウォッチ観光
シドニーへ

8日目：シドニー観光

夜 オーストラリア出発

9日目：朝 羽田空港到着



応募のきっかけ

私が今回応募したきっかけは、外国の文化に興味があり、実際にオーストラリアの学校に通って現地の人たちの生活をこの目で見たり体験したいと思ったからです。

前回の派遣事業に学校の先輩が参加していた経験もあり、その先輩から参加された話を聞いてさらに魅力を感じ、私も参加したいと想いが強くなりました。

応募にあたり英語力に不安もありましたが、今回の参加もひとつのきっかけに積極的にコミュニケーションをとったり、交流していけるように努力したいと望みました。



学校生活

『St Philip's Christian College』（通称 SPCC）という学校に 4 日間通学交流をしました。

SPCC の学校では、日本と同じ通常の授業とは別で、釣りの授業やボウリング、プログラミング、クッキングの授業など日本とは違う授業もありました。

その他に、バイオリンやドラム、ピアノのレッスンがあるみたいです。私も受けてみたかったです。

今回参加した釣りとボウリングの授業は高校生の方々と一緒にやりました。

ボウリングの授業では成功しても失敗をしてしまっても、みんなで盛り上がっていて笑顔で楽しくできました。

釣りの授業では、高校生のバディの子がたくさん話しかけてくれました。また、初心者の方の私に釣りのやり方も優しく教えてくれて嬉しかったです。

クッキングの授業では、三人一組になって、オーストラリアの伝統的なお菓子を作りました。完成して食べてみたら少しパサパサしており、少し口に合わないところもありましたが授業を通じて良い経験ができました。

バディについてくれた子は、会うたびに手を振ったり、お昼休みの時間にたくさん話をしたりして過ごしていました。その他、オーストラリアのことについてもたくさん教えてもらいました。

学校の授業では、3回うるさくすると教室から出されるというルールがあるみたいで特に宗教の授業中は厳しかったです。何人も教室から出されていました。

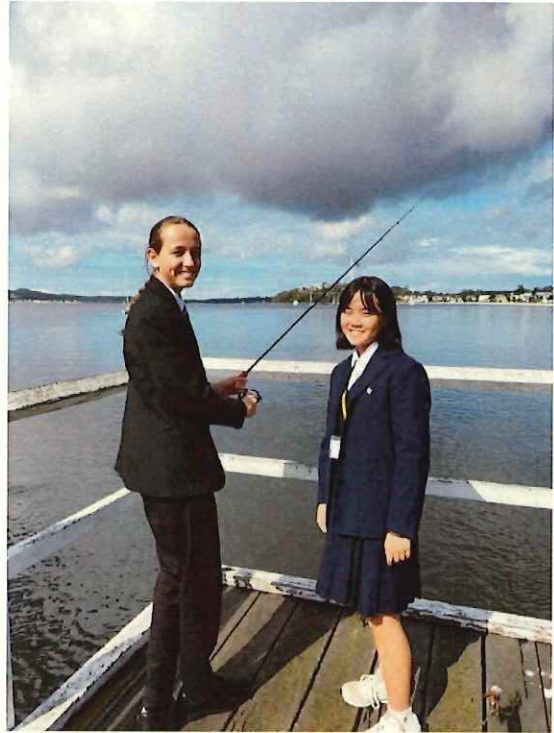
また、日本には無いものとして【スナックタイム】についてです。

昼食までの授業の間に20分くらい時間があり、みなでお菓子を食べました。

家からお菓子やりんご、ジュースを持ってくる子もいれば学校で買っている子もいました。日本でもあったらいいなと思いました。

学校の雰囲気は、オーストラリアの人たちはみんなフレンドリーでした。

廊下を歩いていると、様々な学年の人達や先生方から声をかけられたり、ハイタッチや握手を求められました。また、どのクラスもとても賑やかでした。



文化紹介

『St Philip's Christian College』での1日目に文化紹介をしました。私の紹介したい日本の文化は【日本食（味噌汁）】についてでした。

理由は、和食の中でもお味噌汁は使用する味噌の種類や出汁、具材によって味や香りを楽しめる他、食べると気持ちを安らげたりするのでその魅力を伝えたいと思いました。

今回発表した会場は大きなホールで 100 人くらいの人達の前で発表をしました。

準備では、時間内に発表できる内容としてテーマについて調べ、わかりやすく説明できることを意識して英語の文章にまとめ、声に出してひたすら練習をしてきました。

写真や画像などを USB にまとめて用意しましたが、万が一使用出来なかった場合の対策で写真なども準備していました。

発表が終わった後、パディの子やその友達が「良かったよ！」と言ってくれたのがとても嬉しく安心しました。



ポートステイブンス市での生活

ポートステイブンスでは、学校終わりにコアラ保護区や海、 Tomaree Mountain に登ったり、スーパーマーケット、Dolphin Watching に行きました。

コアラ保護区では治療所や実際にコアラを見ました。

海では、みんなでバレーボールをしたりしました。海に飛び込む人もいれば、砂のお城を作っている人もいて、みんな楽しみました。

Tomaree Mountain では、頂上に着いたら、みんなで集合写真を撮りました。下山するときは、戦争の跡を見たりしました。

スーパーマーケットでは、FREE FRUIT という小学生以下の子が食べられる、無料のフルーツがあり、びっくりしました。また、「火曜はタコスの日」というオーストラリアのCM にちなんだタコスを買って食べました。ものすごく美味しかったです。

Dolphin Watching では嬉しいことに天候や運にも恵まれ、たくさんのイルカを見ることができました。また、操舵室にも特別に入れてもらい船長の方とも写真を撮ることができました。また、人間がイルカに近づくのは禁止されているみたいです。ですが、イルカが近づいてきてくれて素敵な思い出になりました。



シドニー

シドニーでは、ミセス・マッコリー・チェアー、ハーバーブリッジ、オペラハウス、ニュー・サウス・ウェルズ州立美術館を観光しました。

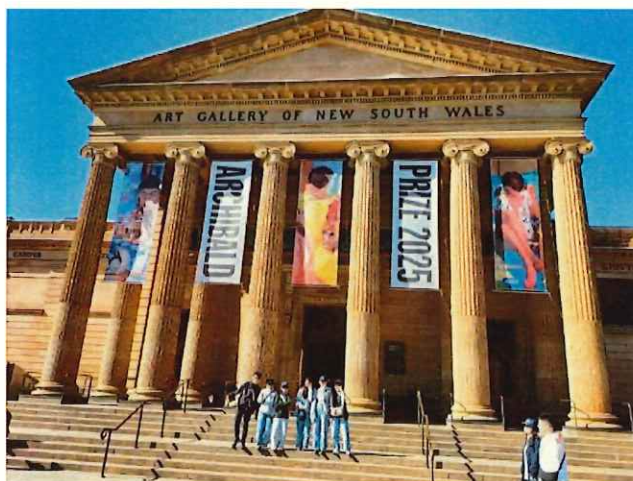
オペラハウスとハーバーブリッジが見える所では、写真でしか見たことがなかったので、とてもその大きさに圧倒されました。

ニュー・サウス・ウェルズ州立美術館では多くのアボリジニの絵を見ることができました。また、日本の浮世絵も飾ってありました。

オペラハウスでは、トイレの手を洗うところがとても面白かったです。

また、近くで見るとより大きく見えました。

買い物ができる場所では少し物価が高くなかなか買うことは出来なかったけれど、日本ではあまり見ないデモ活動や路上ライブをしている人たちがいました。



Welcome Party & Thanks Party

姉妹都市委員会の方が主催の Welcome Party では、ポーツマス市の副市長の方に会い、オーストラリアの食事をたくさん食べました。特に、ソーセージとパブロバ (Pavlova) というケーキが美味しかったです。また、姉妹都市委員会の方からたくさんのお土産をもらいました。

湯河原が主催の Thanks Party では、私が急遽お味噌汁を作ることになって会場に運びました。参加してくれた人たちにお味噌汁やお寿司、カレーライス、から揚げの説明をしました。とても緊張しました。全体での発表をし、最後はみんなが「美味しかった」と言ってくれて嬉しかったです。

Thanks Party には私のバディの子は参加することが出来なかったのですが、学校でプレゼントを渡すことが出来ました。

最後に子どもたちだけで、ハンドボールをしました。

これでお別れとなると、とても悲しかったです。もっと一緒に居たかったです。



まとめ

今回の派遣事業を通して私は、たくさんの体験をすることが出来ました。

その中で感じたことを 2 つ紹介します

1. オーストラリアの人たちは、とても優しい私がうまく聞き取れない時や困っているとき、質問をすると優しく声をかけてくれて、わかりやすく教えてくれました。また、誰かが成功すると自分のことのように喜んでいました。
2. 設備についてオーストラリアより日本の方があらゆる設備はきれいです。例えばトイレはトイレトペーパーが散乱していました。また、道にはティッシュなどのゴミが落ちていました。

オーストラリアの文化を知ることができ、いろいろなことを教えてもらいました。

初めて外国の世界を見たときに、私の見ていた世界は狭いと思いました。

オーストラリアに行って視野を広げることが出来たなと思いました。ですが、上手く英語でのコミュニケーションが取れなかったのが特に悔しかったです。でも、そのおかげで英語をもっと勉強したいという気持ちがさらに高まりました。

今回この事業を計画してくださった方々、随行してくださったお二人、本当にありがとうございました。

